



# 中研レポート No.1 (年2回発行)



発行 自動車安全運転センター 安全運転中央研修所

## 中研レポートの発行にあたって



自動車安全運転センター  
理事長 小林武仁

「中研」の愛称で親しまれている安全運転中央研修所は、自動車教習所指導員やプロドライバーの方々を始めとする高度な技能・知識を必要とする運転者を育成し交通安全に寄与することを目的として、平成3年5月に開所いたしました。

開所以来我が国唯一の総合的な安全運転教育の施設として、実技と理論が一体となった実践的、専門的かつ高度な安全運転研修を行っております。

これまで累計で24万人を超える運転者に対する研修を実施し、研修内容についても各方面から高い評価を得ているところであります。また昨年は、スキッドパンの全面改修を行い研修の効率を向上させるなど、中研は安全運転を支える拠点として日々進歩を続けております。

この中研レポートが中研に対する皆様の御理解を一層深めることに役立ちますとともに、多くの御支援、ご協力を賜りますことを心から願うものであります。

## スキッドパンをリニューアル

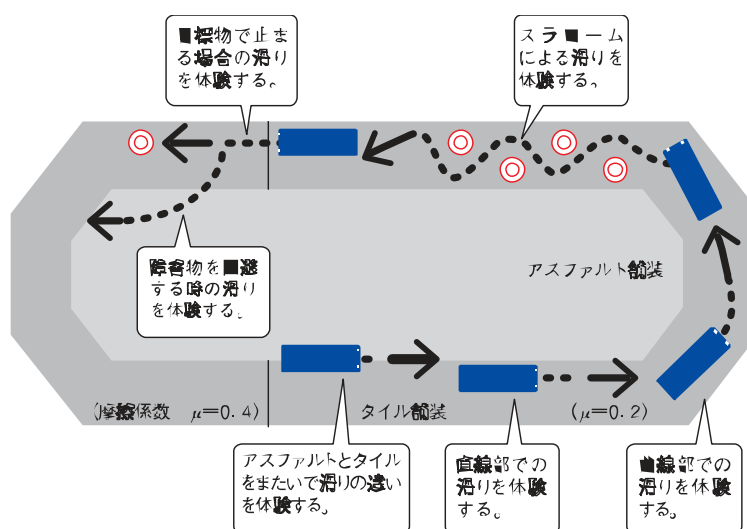


摩擦係数の異なるタイル舗装面に散水することにより、雪道や凍結路と同じような滑る路面を人工的に作ります。

研修では右図のように、直線やコーナーを利用して、スリップなどで車両が運転の限界を超え、操作不能になる状態(スキッド)を体験し、ブレーキやハンドルによる操作の困難性を理解するとともに対処技術などを学びます。

走行中のタイヤが「滑る」体験は、実際の道路では危険で実験できません。そのため、スキッドパンというコースを利用します。

そのスキッドパンが昨年3月、リニューアルされました。幅10メートル、一周約362メートルあり、国内最大です。



## 研修、視察・見学

中研では、国や地方公共団体、企業、団体等からの研修受入の他、視察・見学も受け付けています。視察等は、国内に限らず、海外政府機関等からの視察もあります。ここでは、研修又は視察等の状況を紹介します。

平成19年1年間で、研修受講は、約15,000人、視察見学が、約3,000人ありました。



消防車を利用したスキッドパンでの研修。一度スリップしたら立て直しは困難。



フルブレーキングの研修。ABS車の場合、ブレーキを強く踏み込むことが必要であるが、事前に指導を受けていても難しい。



1000cc超のバイクでスラロームの研修。ニーグリップをしっかりとって、視線はコースの先を見通し、軽快なアクセルワークで走行するのがコツ。しかし実際はなかなか難しい。



平成19年11月6日 海外からの視察 スキッドパンでの乗車交代風景 - アフガニスタン、バングラディッシュ、中華人民共和国、ネパール、オマーン、フィリピン、サウジアラビア、スリランカ、ベトナムの交通警察に従事する職員9人が視察



一周5キロメートルの周回コースを利用してこんなことも実施される。

← 平成19年7月1日 中野浩一V10メモリアル ツール・ド・ジャパンでのスタート直前の小学生

## 利用者の声

新日本製鐵君津交通安全推進会では、長年にわたり交通事故防止対策の一環として、職場で働く会員の皆さんを中研に派遣し、積極的に研修を受けておられます。

平成19年度におきましても5月に2度に亘って研修に参加され、「良かった」との感想をたくさん頂きました。また、その反響については同会発行の機関誌『KKSニュース』に掲載されました。



新日本製鐵君津交通安全推進会発行機関誌  
『KKSニュース』第195号の紙面

### 【感想・意見(抜粋)】

- T氏：実際に通勤・仕事で運転しているが、忘れていたり、知らないことが多く驚いた。今後の生活に非常にためになる研修だった。
- S氏：運転前の車両チェック及び体調チェックは実施したい。有意義な研修だった。初めて車を購入する者への研修義務づけを実施しては。
- K氏：教官の指導どおり、ABSを作動させずに危険回避できる運転をしたい。今後、運転に対する気持ちを切り替え、行動したい。
- Y氏：免許取得して10年。忘れていた基本を思い出させてくれる貴重な経験でした。交通事故の加害者・被害者にならないためには、知識が大切であることを学びました。

## 中研の挑戦 GPSを活用した研修システムの開発

交通事故を減らすためには、自分がどんな運転をしており、どんなところに注意しなければならないかを客観的に知ることが重要です。

中研では、GPSを活用して、実際に走行した道路、周囲の建物、その中を走る車両の軌跡をCG映像で再現し、自己の運転を第三者の視点から分析できるようにする研修システムを開発中です。

このシステムが開発されると、例えば、対向車からの視点で自分の運転を確認することで、今まで気付かなかった危険性を理解することができ、安全運転に役立てることができそうです。

現在、平成20年度の一部研修に導入すべく、データの蓄積と分析技法等を開発中です。



実際の運転の状況が立体的に再現でき、自分の運転の欠点等を検証できます

### シミュレーターシステムの概要図

実際の映像CG映像



## 教官コーナー

中研は、世界トップレベルの総合的な安全運転研修を行っています。そんなハイレベルな研修を支えているのは、知識・技能・指導力のいずれの分野でも秀でた力を有する教官達です。

そんな教官達のプロフィールをご紹介します。



滝口禎雅教官 (50歳)

20歳の時から約8年間、二輪メーカーの「テスト・ライダー」としてオートバイの開発業務に従事した経験を持つ。一番の思い出は、「パリ〜ダカール・ラリーのベース車テスト走行」や「ドイツ・アウトバーンでの300km高速テスト走行」など。研修所では、これらの経験を踏まえ、「人が車を動かす」という視点から「生きた研修」に心掛け、「楽しく、分かりやすく、ためになる研修」をモットーに頑張っている。



飯村英夫教官 (39歳)

交通機動隊に通算13年勤務。全国白バイ大会の賞を誇るプロの白バイ隊員を自認。研修指導の中でも、トライアル走行は、オートバイの前後左右のバランスを理解する上で欠かせないものである。全国警察の広域救急援助隊による救出活動等の最適手段として必要不可欠な技術。余暇には、トライアル競技国際A級選手として世界選手権日本大会等各種大会に参戦し、研修指導とはひと味違った緊張感を味わっている。

## 調査研究は今

センター本部の調査研究部では、調査研究のデータを得るため、中研のコースを活用しています。19年8月中旬の実験状況を紹介します。



◀ 「自動車側から見た自転車の通行方法の特性等から生じる対自転車事故の回避に関する調査研究」の実験風景

気温が35℃を超える炎天下、近郊の中高学生やシルバーボランティアから派遣された高齢者が被験者として参加、自転車の走行速度や停止距離、交差点における自動車からの視認性等に関して多くの貴重なデータが得られました。

「トレーラーの運転特性と安全な運転に必要な技能に関する調査研究」の実験風景 ▶

海上コンテナ等を積載したトレーラーを使用して、様々な運転操作を行い、車両挙動、操縦安定性等に関する実験を行いました。



### 自動車安全運転センター本部

〒102-0084東京都千代田区二番町3番地(麹町スクエア)  
Tel. 03-3264-8600 (代表) Fax. 03-3264-8610

### 安全運転中央研修所

〒312-0005茨城県ひたちなか市新光町605-16  
Tel. 029-265-9555 Fax. 029-265-9565